様式1 令和2年度　山梨県立中央高等学校・定時制　評価報告書（自己評価・学校関係者評価）

学校目標・経営方針	自尊感情を高め、社会の中で自立する生徒を育てる。

山梨県立中央高等学校校長　川手　正昭

本年度の重点目標	
	1　自ら進んで学習に取り組む意欲を高め、確かな学力を育成する
	2　CHUOハーモニックプランに基づき、社会において自立できる力を育てる
	3　自主的に健康で安全な生活を送ることのできる実践力を育てる

達成度		
	A	ほぼ達成できた。（8割以上）
	B	概ね達成できた。（6割以上）
	C	不十分である。（4割以上）
	D	達成できなかった。（4割以下）

評価	
4	良くできている。
3	できている。
2	あまりできていない。
1	できていない。

自己評価							学校関係者評価	
	本年度の重点目標			年度末評価（令和3年2月4日）			実施日　（令和3年2月中旬）	
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策	評価	意見
1	自ら進んで学習に取り組む意欲を高め、確かな学力を育成する	・生徒の学習意欲を高める教材や自己の在り方・生き方についての考察を深める教材の工夫 ・相互授業参観や授業アンケート結果を活用し、いわゆる「アクティブ・ラーニング」の視点などに立った授業実践と授業改善の工夫	生徒、職員、保護者、学校関係者などによる中間・年度末評価アンケートなどによる	・学習意欲の高揚に関して、教員は「学習意欲やあり方生き方を深める教材への工夫ができている」が93.8%、生徒は「多くの先生方の授業は、わかりやすくするための工夫をしてくれている」が84.8%と、ほぼ良好な結果となった。 ・アクティブ・ラーニングの視点での授業実践等について、教員は自分の授業に関して79.2%が肯定的であり、生徒の授業に関する項目で「学力が付いた」、「授業が好きだ」、「自分は意欲的に授業に参加している」の肯定的意見の平均が80.8%となっており、これもほぼ良好であった。 ・教育課程の編成について、職員は「生徒の特性に応じた各教科・科目の履修、生徒の個性を生かす編成」について95.9%が肯定的であった。	B	・コロナ禍にあって、向かい合ってのグループ学習などができない状況で、アクティブ・ラーニングの視点「主体的・対話的で深い学び」を視野に入れた授業実践が難しい1年間であった。家庭で主体的な学びがし易い課題の作成、実際に生徒が社会に出て有益であるあるいは生徒の人生が豊かになる学習を目標に、授業・学校行事を行ってきた。次年度も引き続き、「コロナだから全部、中止」というのではなく、「どんな方法であれば、安全な状態で生徒が学習目標を達成できるのか」という視点で学習活動全般を考えていきたい。 ・生徒の多様化は来年度以降も続くと考えられる。教育課程については、引き続き、多様化した生徒が、充実した高校生活が送れるような教育課程を考えていきたい。	4	教員と生徒とのコミュニケーションがよくできていて、生徒も教員も肯定的にみており、相互の信頼関係が育まれている。 本年度は特に世界的なコロナ禍のため、休校が実施された中、教育方法も、思考を重ね、努力した様子がよくみられた。 アンケートの資料を見ると、「先生方の授業はわかりやすい」ということから、「学力がついた」という評価に結びついたと思われる。 一方で、コロナ禍にあり休校等、家庭学習する時間は増えたと思われるが、学習時間の平均が下がっていることに問題があると考えられる。 8割以上の生徒が教員の授業に満足しており、学校の努力が実を結んでいる。 学校目標設定については、現状と課題に基づき実情に合わせて設定していると思うが、更に具体的に生徒にも保護者にもわかりやすいものにしたほうがさらに良い。 通うことが楽しいと思える教育環境が整っていると感じる。教員に要求されることも多いが、ぜひ今後とも学校運営に尽力いただきたい。
2	CHUOハーモニックプランに基づき、生徒が社会において自立できる力を育てる	・分掌や年次を俯瞰したハーモニックプランの実践 ・個に応じたきめ細かい指導、育成意図を明確にした指導の実践 ・「通級指導」の検証と今後の方向性の検討 ・多様化する生徒に対する指導の多様性を認め合い、学校全体として適切な指導が行われるような教員間の役割分担や協力体制の構築	生徒、職員、保護者、学校関係者などによる中間・年度末評価アンケートなどによる	・教員の「ハーモニックプランの実践」に関する肯定的評価はどの項目も非常に高かった。生徒の「ハーモニックプランの目標・自己肯定感」の肯定的評価は79.1%、昨年度比11.5%増であった。コロナ禍にあって各行事の中止・縮小、授業においてグループ学習等の実施にし難さはあったが、教員・生徒ともに評価は上昇してきていると考えられる。 ・「進路行事や情報提供の充実」は教員95.8%、生徒89.3%、保護者72.0%となった。教員・生徒と保護者の評価に乖離がある。コロナ禍にあって、保護者が学校に来校する機会が減ったり、生活自体がたいへんで、学校からのたよりも目にする機会も少なかったのではないかと推測する。 ・教員の「個別指導を行っている」は91.6%が肯定的であった。生徒は「年次・担任の先生との信頼関係」で81.2%、「悩みを相談できる人がいる」で78.8%が肯定的評価であった。普段の様子からも通級指導を含めて多様化する生徒に対して年次・担任・教育相談・生徒指導など多くの部署で、手厚い個別指導が行われており、救われている、成長している生徒は多数いると考えている。	B	・本校に入学する生徒の多くは自己肯定感が低いと言われるが、長い年月を掛けて失われた自己肯定感・自己有用感を少しでも改善するためには、やはり長い時間が必要だと考えている。コロナの蔓延がいつ収束するかは予想が立たないが、引き続き「三密」を避けながらも、CHUOハーモニックプランを推進し、意図的・計画的に自尊感情を高め、社会性を醸成し、自立する力を向上させる取り組みを続けていきたい。 ・進路指導に関しては全体的に高い評価が多いが、多様化する生徒の傾向を踏まえ、一段と個別の指導が重要性を増してくると考えている。 ・総合的な学習や学校行事を授業とも横断的に繋げ、生徒にとって深い学びとなるように、保護者への周知及び引き続き外部諸機関との連携を大切にしていきたい。 ・「通級による指導」やソーシャルスキルトレーニングも行う教育相談の先進校として、職員全体の多様化する生徒への対応能力を高めていきたい。特に、一番必要なのは「体験」だと考え「THE　ENSOKU」を始め基本的な体験を取り入れている。それが生徒には「ハーモニック・プラン」の一環だとは自覚しにくい面もあるが、引き続き根気よく指導を続けていきたい。	4	学校にいる間に生徒たちには社会の荒波にも堪え、歯を食いしばって自立した生活が送れるように今後も指導してもらいたい。 ハーモニックプランは大変すばらしい。今後もいろいろな生徒がいて大変かと思うが、根気強く生徒を指導していただきたい。 一般的な全日普通科高校とは違い、生徒の家庭環境や能力が異なる中、ハーモニックプランに基づく教育方法は素晴らしい。ただ、残念なのは、生徒と保護者とのアンケート結果に大きく差があったこと。生徒と家庭とのコミュニケーション不足も考えられるが、今後は、より家庭にもアピールする必要があり、生徒の評価と保護者の評価との乖離を狭めていく必要性を感じる。 ハーモニックプランを通じて継続した教育活動が行われた結果、「私もできる」「私も価値があるかも」という自信が以前よりも持てるようになっているという数値が著しく上昇している。また教員と生徒との信頼関係ができていることが学校評価アンケートから見て取れる。 ソーシャルスキルトレーニングや体験的な学習、地域・外部連携授業などをコロナで制約を受ける中、多くの支持や評価を受けていることは特筆すべきである。 多様化する生徒の対応に対し、年次・教育相談・生徒指導で手厚い指導が行われている様子がうかがえる。しかしながら、役割分担や協力体制の構築は困難を極めると思う。どうか今後も生徒のために尽力してもらいたい。
3	生徒が自主的に健康で安全な生活を送ることのできる実践力を育てる	・防災避難訓練のさらなる工夫・改善と実践 ・各教科において「避難防災」を主題とした授業に取り組むことによる生徒及び教職員の防災意識の高揚 ・職員も、自己の勤務時間の把握により働き方改革を意識し、積極的な年休取得により自らの健康管理を行う。	生徒、職員、保護者、学校関係者などによる中間・年度末評価アンケートなどによる	・教員の「災害等のマニュアル作り、訓練、研修会等」について肯定的評価は98.0%、生徒の「災害が起こった場合の行動」についての肯定的評価は90.6%いずれもと高評価だった。 ・教員の「対応力の向上」は93.8%と高評価となっている。生徒及び保護者の視点に立った対応並びに臨機応変な対応や教員間の情報共有を大切にしている結果であると考えている。 ・職員の働き方に関係して、勤務時間調査を毎月、全員の教師に実施した。また、長期休暇中の年休取得の奨励などを確実に行ってきた。	B	・昨今の気候変動に関連した災害は全国各地で聞かれる。次年度も防災教育の推進は、各教科での取り組み、より実践的な避難訓練、防災に関する職員研修の充実など、教員間で共通理解を得ながら、引き続き行っていきたい。 ・収束の予想がつかないコロナ禍にあって、毎日の健康観察を含めたコロナ対応、再来年から実施される新課程への対応、ICT教育の推進、多様性のある生徒への対応や個別相談・通級指導など、次年度、考えられる課題は多く、職員はさらに多忙になると思われる。勤務時間調査、年休取得励行、行事・業務の精選、終了時刻を決めた会議の実施、連絡事項は可能な限りCP上の連絡板で行うなど、効率的な業務処理を推進する中で、生徒との対応時間は確保していきたい。	3	気候の温暖化で災害被害が拡大する傾向にある。避難訓練では初期対応が重要である。今後とも自治会とも連携して訓練を進めてほしい。 伊勢湾台風の被害を過去のものにするのではなく、過去から教訓を得てよりよい防災訓練に結び付けてもらいたい。 アンケートでは「健康に関する指導」への評価が著しく向上している。コロナ禍において保健指導が徹底されていたことは高く評価できる。 安心安全な学校づくりに対して教職員が一丸となってあたっていることがよくわかる。 教員の多忙化が叫ばれている。学校評価アンケートの中にも多忙化解消に向けた取組に対する項目を設けたほうが良い。 中央高校は様々な困難を抱えた生徒の受け皿になっている。この点を見ても教員にさらなるしわ寄せがあると考えられる。管理職が呼びかけを広くして、積極的に年休取得に努めてもらいたい。またこれまで以上に教員配置を要望し、日本の未来を背負う生徒一人一人を大切に育てていける体制づくりに力を入れてほしい。

（2）学校関係者評価については，年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し，評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは，最終回の学校評価委員会等を開催し，学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。